

2015.7.23 提出 視察報告書 町田市議会 個人視察（保守連合） 吉田つとむ  
視察先 愛知高速鉄道 リニモ  
実施日 平成 27 年 7 月 14 日

### 施設について

沿線自治体などが出資する愛知高速交通株式会社が運営し、愛知万博(2005年)に合わせて運行開始、現在に致る常設実用路線となる。沿線の通勤・通学に利用される日本で初めての磁気浮上式鉄道（リニアモーターカー）となった。通称、リニモと呼ばれる。

延長は 8.9km、駅数は藤ヶ丘駅から 8 駅目に八草駅が終点。全線複線で、最高速度は 100km/h とされている。

### 所見





愛知高速交通株式会社のリニア線「リニモ」に乗車しました。約 10 分間隔で運転されており、藤ヶ丘駅から愛知万博公園駅の 6 駅間に乗車したものです。実際に確認した運行速度は最高で 50k 程ですが、駅の区間が短く大半の走行は 30-40 k m でした。磁気浮上式のリニア線であり、実になめらかな動きを示しました。この磁気浮上の原理はリニア中央新幹線車両も同じ方式であり、リニアは振動の少なさが特徴と言えます。

この「リニモ」が 2005 年愛知万博に使用された後、通常的生活交通手段として 10 年間も通学・通勤利用されており、名古屋周辺、あるいは愛知県内では「リニア」に偏見はなさそうでした。

「リニモ」の運転は無人走行であり、その点はお台場を走る「ゆりかもめ」と同様です。車両の前部は運転席になっていましたが、そのスペースには人はおらず、全ての車両はコンピューターによる中央制御でした。ただし、時節柄か、車内係の人が乗車していました。将来、保安体制の強化が必要となると、別途、有人警備が前提になるのかもしれませんが。

なお、経営面では、初期費用を除いて、収入が運行経費を上回り、黒字化を達成しているとのことでした。この点では、多摩都市モノレールと同じ状態と見なされます。

名古屋市営地下鉄東山線藤ヶ丘駅と接続され、他方で愛知環状鉄道線とは八草駅で連絡し、大都市郊外の路線としては、まだまだ沿線開発が見込まれる地域でした。

なお、リニアの特徴は、勾配に強いという面もあります。